

市民性を高める学びの機会

村上徹也

2年目を迎えた本年度のサービ斯拉ーニングクラスを担当して、まず学生たちのNPOでの活動が大過なく終えることができたことについて、学生たちを受け入れていただいたベタニアホーム、共育ネットはんだ、ふわり、ふれ愛、絆の皆様の暖かいお世話と、適切にご指導にたいしての深い感謝の意を記したい。学生たちは後期の授業をとおして、様々な角度から活動を振り返り、それを文章や言葉にしていって、その中には、様々な立場や世代の人たちと触れ合いながら役割を果たすために必要な社会人としての基礎的な知識、姿勢など、またはコミュニケーションや企画・実践の力など、さらには地域にたいする問題意識や問題解決にたいする当事者意識などについて豊かな学びについての表現が溢れていた。それらの学びは、常にNPOでの人との触れ合いや関わりをきっかけとして生まれたという趣旨の文脈の中で語られている。何より、誰もが普段の暮らしの幸せを感じることができる地域づくりを目指している活動先の現場での体験だからこそ、学生たちは貴重な学びの機会を得られたに違いない。改めて、活動先が持つ市民が育ち合う場としての価値に敬意を表したい。

学生たちのNPOでの活動を通した学びの成果を高めるために、前期授業では活動の企画や計画をつくるだけではなく、活動先が取り組む社会課題についての問題意識を高めるためのグループワーク、後期授業では活動先で気づいた社会課題について学問的にも知識を深めるための課題研究などを取り入れた。その結果は、5つのNPOに共通する課題として学生たちが見つけ出した「NPOと地域住民の相互理解と交流」についての提案に活かされた。「NPOへの参加のきっかけを増やすためにも多くの世代が気軽に集える居場所づくりが必要」など活動先への提案内容は、NPOの皆様にとってはよくわかっていてすでに取り組みを始めていることであるかもしれない。しかし、学生たちがNPOの方たちと共通の問題意識を持つことができたという点で、前期後期の授業におけるリフレクション・プログラムの成果が現れたのだと評価している。

また、学生たちの提案には「活動を経験した学生たちが他の学生たちとNPOをつなぐ役割を果たす」というように、学生自身が今後どのような取り組みを行うべきかという自分たちと大学に向けた内容もあった。サービ斯拉ーニングクラスを履修した上級生がメンターとして2年生を支える仕組みづくりに向けて、彼らの提案を活かしていきたい。